

蒲田東特別出張所管内

人口	男	23,602名
	女	22,239名
	計	45,841名

世帯数 28,333世帯

令和元年7月1日現在

# かまた東

★発行  
地域力推進  
蒲田東地区委員会

★編集  
地域情報紙「かまた東」  
編集委員会

★事務局  
蒲田東特別出張所  
蒲田本町2-1-1  
TEL (5713)2001



毎月第二日曜日早朝の蒲田三丁目児童公園。町会のシンボルカラーのオレンジ色のジャンパーやTシャツを着た人たちが次々と集まってくる。その数、約五十名。小学生から後期高齢者まで。今や、蒲田三丁目の風物詩となったリサイクル活動(古紙回収)と町内清掃の景色である。およそ二時間の作業後、スタンドパイプ(以下SP)を用いて防災訓練が実施される。ちなみにSPとは、初期消火に有効な消火機器である。現在町内に八台のSPが設置されており、毎月順番に場所を変えて訓練を行っている。事前に、SP設置場所付近の二十〜四十世帯の方々にご案内を配布。当日は十数人が参加。「やあ、やあ」と挨拶が交わされる中、市民消防隊の模範訓練が開始される。その後、参加者も消火栓を開ける。水を出す。ホースを持って放水する。この動作を市民消防隊指導のもと、順番に行う。うまくできると思わず大きな拍手が起こる。終了後、蒲田消防署員から講評をいただく。この間、

て散会。このような訓練を数年間繰り返してきた。そして、やっとそれぞれのSPごとのチームが結成できるところまでこぎつけた。チーム編成は、リーダーを中心に五名前後のメンバー。市民消防隊員一名がアシスト。今後、チームごとの勉強会や懇親会を開催する。今年度の大きな活動目標である。



ご近所同士でスタンドパイプ訓練

そもそもこの活動の出発は、大震災発生の時、何が一番大事かを議論したところから始まった。すわ一大事の時に、消防署も警察署もわが町に駆け付けることはまず不可能。結果、近隣の人たちが顔の見える関係になり相互扶助で助け合う以外にない、と結論。いわゆる近助。そ

のために、どんな活動が必要かを検討。おりしも、東日本大震災直後で、防災意識が非常に高まっており、防災訓練を近所の人たちだけでできないかを考えた。その時、SPという初期消火に最適なツールがあることを知り、これを利用することに決定。区内で初めてのSP常設工事となり、区の職員と共同で工事を進めることができた。重ねて強調したいことは、初期消火はもちろん大事だが、それ以上に近所のつながり、今風に言えば近所の絆づくりが大切である。ありがたいことに、わが町の市民消防隊は、防火防災部長のもと、若いメンバーが隊長を中心にして固い団結を誇り訓練に明け暮れている。このメンバーがそれぞれのSPに責任をもってかわる体制がやっと整った。今後、訓練はもとより、勉強会や懇親会を繰り返しながら近所のつながりをより一層強いものにしていきたい。

さて、もうひとつ、わが町には誇れる防犯のツールがある。八年前に地元商店会と共同で設置した九台の防犯カメラである。東京都と大田区が、設置に対して助成制度ができたのをきっかけに申請。煩雑な事務処理にはいささか手を焼いたが何とかクリア。おりしも個人情報については過敏な社会状況。設置場所近辺の方に、丁寧に説明を繰り返した。管理規定や運営規定を作成し、やっと稼働開始。これまでの窃盗や空き巣等の事件がほとんどゼロとなる。併せて大きな収穫があったのはゴミ問題。設置前は、多摩堤通りにポイ捨てをする不逞の輩に悲鳴を上げていた。ゴミが一つ捨てられていると、同じ場所に次から次へと捨てられる。清掃の日に回収、翌日になるとゴミの山。このうちたちゴツコが解決。大きな成果である。また、事件や事故の捜査のため、蒲田警察署をはじめ、本庁捜査一課や捜査二課等から映像記録の照会が月一程度ある。窃盗犯の逮捕等につながっているように、大変感謝されている。とはいえ、故障等によるカメラのメンテナンス費用が結構かかることは頭が痛い。大田区としても、電気代等のランニングコストに助成はあるが、メンテナンスに関わる助成も今後考えてほしい。いづれにせよ、防犯部が中心で行う月二回の町内パトロールと九台の防犯カメラがわが町を守ってくれている。今後、町内パトロールが、一人住まいの高齢者見守り活動と連動するような活動形態にならないか、思案中である。

蒲田三丁目町会 衛藤 武近



### 星空に想う

東蒲田一丁目町会

相良 武雄(マシネム)

久しく天の川を見ていない。夕方から、金星をはじめ全天に様々な星々が輝きを増しながら、ミルキーウェイと呼ばれる全体にやや灰白い銀河がその長大な姿を現して来る。白いミルクの正体は、何億という星の集まりなのであるが、その流れの中に一際明るい星を見つけても、その名さえ知らない。ミルキーウェイは勿論、日本では一般に天の川と呼ばれている。やがて全天が漆黒の闇に包まれると、星々は愈々その輝きを増し、幼い頃から見慣れた北斗七星やカシオペヤ座が北極星を指し示すのを



懐かしいミルキーウェイ

見て取れる。それが夏か秋か或いは冬なのか記憶は定かではないが、時折流れ星を見たような気がする。六十数年前の事である。日本が戦後の混乱を抜け、高度経済成長時代に入る前の事だ。あれからスプートニクが飛び、人々の目は違った意味で空に目を向けても、屈託のない想いで空を見上げることは少なくなったように思う。宇宙にはたくさん的人工衛星が飛ぶようになり、勿論、科学や経済も進んだけれど、人類は何か大切なものを置き去りにしてきたような気がする。満天の星空を見たいとつくづく思う。

### 自分で自分を・・・

東蒲田一丁目自治会

笠原 義孝

最近人生を振り返ることが多くなりました。年のせいかそれとも来年二〇二〇年開催される東京オリンピック・パラリンピックのせいかとも思います。私は一九六四年「昭和三十九年」の東京オリンピックの年に社会人になったせいかも知れません。勤

務地は三鷹でした。「京急蒲田」品川「新宿」中央線吉祥寺「バス十五分」の、通勤時間約一時間の研修期間、通勤できるか不安でした。しかし、研修期間中に覚えた麻雀に嵌ってしまい、通勤時間が苦にならなくなりました。残業以外は常に麻雀。帰宅は毎晩午前様。土曜日曜は競馬、パチンコと、本当に忙しい毎日です、その中で少しの仕事とちよつぱり恋愛。本当によく続いたと思う。三鷹勤務、無遅刻無欠勤の三十五年。そして五年間の神田本社勤務を経て、定年を迎え、そのあと協力会社で七年間勤務して、現在マンションの管理人を務めております。東京オリンピックから五十五年、病気もせずよく頑張ったと思います。

先日、家の奥さんにこの話をしたら、「健康で丈夫な子供に産んでくれたお母さんに感謝しなさい！」と言われました。確かにと思いい何言ひ返せませんでした。少しは褒めてくれるのかと思いましたが駄目でしたので、自分で自分を褒めてやりたいと思っています。

新元号令和の時代が自然災害の少ない穏やかな時代であることを願い、もうひと踏ん張りして家族の誰かが褒めてくれることを期待します。

言うより、蒲田っ子が蒲田で生まれて良かった、住んで良かったと思う様、ジイジ・バアバ達に街づくりを努力しないといけないと思う。

北蒲広場の避難所訓練を終えて  
蒲田二丁目自治会  
安藤 義廣

平成も終わりに近い三月十日の日曜日、蒲田二丁目東町会、蒲田二丁目自治会、そして蒲田東特別出張所の協力で北蒲広場の避難所訓練を行いました。今回の訓練の目標は次の三点としました。一点目は体育館の居住スペースの体験、二点目は避難所内にある機器の確認と操作、三点目は避難所内部の状況と区の備蓄品の確認です。特に居住スペースの体験には、非常に力を入れました。体育館の内部を、一人あたりのスペースを幅九十センチ、縦二百センチとして十四名分を一ブロックとし、九ブロックで区割りを立てて縦横に幅九十センチの通路を設けました。そのうちの二ブロックだけに厚さ一ミリの断熱シートを敷き、実際に十四名を一グループとして参加者全員に寝ていただき、隣の距離感や窮屈さを感じていただきました。各機器の操作体験は簡易トイレ、LEDランタン、ガス発電機と投

### 蒲田っ子のために

蒲田東口町会

上澤 功夫

江戸っ子とは、江戸で育った者を言い、はじめは日本橋や神田あたりで生まれ育った者に言いますが、東京で生まれた者にも言うそうで、父母ともに三代続きの市民であることが必要条件とされたそうである。

と言うことは、蒲田っ子も三代続きの区民であることが必要になる。私と妻は蒲田で生まれたので、息子で二代目、そして孫が生粋の蒲田っ子である。その蒲田っ子が蒲田から学校に通い生活をし、そして四代目に引き継がれるような街になってほしいと思っている。

蒲田は行列のできるラーメン屋やトンカツ屋があり、美容院も多く、不動産屋も沢山あるので衣食住には困らない街だと思ふ。また、最大の魅力は何と言っても交通の便の良さだと思ふ。京急・東急・JRの鉄道があり、幹線道路にも隣接している街は都内でもそんなに多くないと思う。

蒲田は駅周辺の再開発を始めとして大きく変わろうとしているが、将来、呑川がきれいになり区画整理が進めば、今以上に住みやすい街になると思う。と



光器、災害用伝言ダイヤルと携帯電話の充電、貯水槽からの給水作業でした。その中で想定外の失敗もありました。給水作業時に貯水槽のバルブにゴム状のものが詰まっており、出水に手間取ってしまったのです。貯水槽の定期的な保守点検の大事さを痛感した次第です。

防災の備えに思う

東蒲田二丁目南町会

高田 レイ子

私の故郷は、台風のために荒



波・強風の様子が放映される鹿児島県志布志だ。昔は、台風の

上陸前に父が雨戸に横棒を、窓に筋交いで補強していた。又、停電時のためにロウソク・マッチは必ず備えていた。

東蒲田に住んで四十三年、現在では町会の役員と女性市民消防隊として活動させて頂いている。先日、脊髄スベリ症になり「車椅子」の世話になった。その使い方・段差の押し方などで苦労した。「車椅子」の使い方を防災訓練に取り入れてほしい

と思つた。又、親を介護するご家族向けの訓練があつてもいいと思う。内容は『イザの時』何を準備するかという簡単な事でも良い。我が家はベッドの横にスリッパを用意している。又、水・インスタント味噌汁・チョコレート・クラッカー・常備薬を常備している。

天災は必ずやってくる。先ず自分の安全確保、火の始末、指定の避難場所へ、そして家族への連絡等、平日頃の対策を愛する家族のためにやってみよう。

人の優しさに触れて

東蒲田二丁目町会

佐藤 道子

先日我が家の愛猫が行方不明

になりました。八年間一緒にいて、ほとんど家の外に出たことのない猫です。家から出ない猫は、昼はおびえて顔を出さず、夜は半径五十メートル圏内を活動すると聞いたのですが見つかることが出来ません。あつという間に一か月が経ち、半ば諦めかけていたところ、友人が黒っぽい猫を保護しているという貼り紙を見たとき連絡をくれたのです。絶対うちの猫に違いないと警察に連絡したところ、とても親切な方が保護してくださって

いました。怖くて隠れたまま二週間が経ち、何も食べることが出来ず、おなががすいて弱つて出てきたところを見つけれられたようです。見つけてくださった方が獣医さんに診せ、ポスターを作り知り合いに頼んで貼ってもらったそうです。そしてなんと十日間も面倒を見てくれました。おかげで私の元に戻った時には、ほぼ元の状態で元気になっていました。

保護してくださった女性をはじめ多くの方々にお世話になりました。皆さんの優しさに触れ、穏やかな気持ちになりました。暖かい人たちがたくさん住んでいる地元は、私ももっと貢献したいといけなさと感じる出来事でした。

自然の恵みと私の町

蒲田三丁目町会

松野 捷二

私の住む蒲田三丁目には、大変居心地の良い、住みやすい街です。近くには梅屋敷公園があつて、四季折々の草花を見ることが出来ます。早春には、特に梅の花が美しく、私の散歩コースになっております。そこで一休みしたり、写真を撮ったり、読書などをして、自分の世界に入つて優越感に浸っています。それ

から、近所のパソコン教室に通つて教養を深めております。自宅から五分くらいのところにはコンビニやスーパーマーケットがあつて、買い物も非常に便利です。「蒲田三丁目町会」は、子供たちの見守り活動や公園の鍵の開閉、リサイクル、町内清掃、カラオケ、軽体操、絵手紙など、色々行っております。また、「さんぽ会」というイベントがあつて、定期的に目的地を決めて実施しております。健康寿命と平均寿命との差は、十歳位あるようですが、その問題を解決する方法は、色々な趣味を持つ

て行動を起こすことです。自然との調和を図りながら、他人に頼らず各人が日常生活を謳歌することで、明るい社会が可能になります。

人生百歳時代を生きる

蒲田本町二丁目町会

阿部 慶一

夏目漱石がいくつで亡くなつたかを知っていますか？ 答えは四十九歳です。今は、医療や栄養が良くなり、その倍の百歳まで生きることができるようになりました。

四ページに続く

爽やかな風

蒲田東特別出張所

所長 水野 綾

蒲田東地区の皆様、こんにちは。四月に蒲田東特別出張所の所長に着任しました水野と申します。皆様とは以前、連続立体事業本部連続立体再開発担当としてまちづくりでの関わりがありました。この度は出張所の所長という立場で、地域をより良くするため努めて参りますので

よりよくお願致します。着任してからの地域の皆様

とお話する機会が増えました。暖かく人情味あふれる蒲田の魅力を再発見しています。こちらの「かまた東」も、それぞれの書き手の想いが詰まった、地域に密着した内容となっており、当地区を知るには絶好の情報誌となっております。

いよいよ来年、オリンピックイヤーの皆様と共に迎えます。当地区に来訪されるお客様を「おもてなしの心」でお迎えし、当地区の魅力をアピールできればと思っております。これから、地域力の一層の向上のため、出張所の職員一同、力を合わせて取り組んで参ります。今後ともよろしくお願致します。



大田区ホームページからもご覧いただけます。<アドレス><http://www.city.ota.tokyo.jp/>

嬉しい反面、生き甲斐を感じて健康で長生きすることはとても大変なことです。

フレイルという言葉がこの頃よく耳にします。健康と介護生活の間の状態をいうようですが、フレイルを予防するには、運動・栄養・社会参加が大切とのこと

会社を定年退職した男性にとつて、社会参加はなかなか難しいことです。会社と家の行き帰りで近所に知り合いがいけないので、どうしても家の中に引きこもりがちになります。

生き甲斐を感じる生活を送るには、「他人に喜ばれる」ことがポイントになります。その解決策の一つが町会(自治会)活動です。何より他人が褒めてくれるのです。生き甲斐を持って健康で長生きができるのが町会活動です。町会役員さんが、病院通いしているのに活動を始める

と笑顔になるのを見ると、元気の源だなと感じます。他人のためと思つてやっていたら、実は自分のためにもなっている。あなたも町会で健康と生き甲斐を見つけてみませんか。

自転車押し歩きゾーンに思う

蒲田五丁目南町会

小言 幸兵衛(ヘンネーム)

歳を取ったせいか気が短くなつ

たのだろう。色々な所で腹立たしい事に遭遇する。この所ずつと思つていた事を書く事にする。

JR駅前と近隣商店街や京浜蒲田商店街のアーケードを平然と通る自転車を見かける。私は幾度となくそれらの自転車を降りて押し歩くように注意を促している。

だが下車し、押し歩いて行く人に出会ったことは一度も無い。大抵は無視されるか「フン」とか「うるさい!」と捨て台詞を残し、人混みの中に消えて行く者ばかりだ。

案外主婦や年寄りが多い。中には右手に携帯電話、左手でハンドルを握り、指の間には吸いかけの煙草が挟まれているという曲芸師の取締役みたいなものいる。これ等の行為が重大な人身事故を引き起こしてしまうことは必然と言つても良いだろう。

近頃では電動アシスト自転車も随分増えて来ており、ちよつとペダルを踏み込んだだけでかなりのパワーが加速され、その危険性は一層高まっている。

「自転車押し歩きゾーン」表示の徹底もさることながら、歩行者からの声掛けは絶対に必要だと思ふ。

まだ言い足りない小言があるが、紙面の都合上この位にして置くと思う。



南蒲田二丁目町内会長

田中 寛さん

現在八十七歳になられる田中さん、かくしゃくとしたお姿で、お話しを伺いました。

田中さんは、平成二十九年に国家又は公共に対する功労が顕著であることが認められ旭日章を受章しました。この受章に關し、田中さんは、役員・会員の協力と支援があり、続けられてきた結果受章させていただいた、と感謝を述べています。

さて、田中さんが会長職に就いたのは、昭和五十八年で、それまで町会活動に参加していなかったのです。当時、婦人部長だった故照沼きよさんから、「バックは何とかするから、引き受けて」との強い要請があったからです。それからアツという間に三十六年が経ちました。

田中さんが最初に手がけたのが町会会館の建て直しで、総額



七五〇万円、区からの補助金一五〇万円、町内募金を行い、

不足分は借金し、建て直しに成功しました。次に行ったのは今では何処でも行っている資源回収による資金調達で、当時NHKが取材に来るほどでした。毎月三万五千円から四万円の収入があり、年間五十万円位になりました。この資金を元に防火防災運動、お祭り、盆踊り、運動会、もちつき大会、年末パトロール等のイベントを行い、町内の親睦を重ねることが出来ました。取りやめたこともありましたが、それは、役員会が酒飲みの方にあっており、婦人部がお手伝いすることに、女性役員のご主人から「ホステスではない」というクレームが入り、即座に廃止したそうです。

田中さんが日ごろからモットーとしておられることは、**まじめに努力すること**です。必ず誰かが見ていて助けてくれると、おっしゃっていました。

田中さんの次の目標は、会館の建て直しだそうです。現在の会館の裏手に二十五坪の土地と家屋を購入しており、町会員も年配者が増えているのでエレベーター付きの新会館を建築したいとのこと。ご自分の長所は、話をよく聞き、良く処理すること。短所は怒らないことだそうです。最後に奥様には永年苦勞を掛けたので何らかの恩返しをする時期が来たと奥様想いの一面を見せてくれました。



私たちは、皆さまから集めていただいた、赤い羽根共同募金や歳末助け合い募金などを活用し、地域の皆さまや関係機関・団体、行政や福祉サービス事業者など、さまざまな方と連携・協働のもと、「豊かな福祉社会」の実現に向けて、地域福祉の推進に取り組んでいます。

車椅子の無料貸出し

令和初



め十連休、遠方から親戚を区内のご自宅にお連れになり、お墓参りなどをされたいという方が借りて来られました。普段は杖で歩いていても、遠出するときは車椅子を利用していただければ無理がなく外出を楽しむことができます。

区内二十五か所に『車いすステーション』があり、車椅子の無料貸出しを行っています。

蒲田東地区の『車いすステーション』は、北蒲広場(蒲田二丁目十番)内にあり、大田区保護司会にご協力いただき、貸出用車椅子を二台用意しています。区民の皆さまが、より身近な地域の場所から借りることができるよう、地域の皆さまのご協力いただいています。なお、貸出をご希望の際は、大田区保護司会【37391734】に、事前にご連絡をお願いします。

【問合せ先】

おおた地域共生ボランティアセンター 電話 37361555